

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

04February 2010

IN THE HEADLINES



ルーマニア

IMFは現在実施中のスタンバイ取極の第2、3次レビューについて、職員レベルでの合意に達し、政府の財政政策の方向性について概ね前向きな評価を与えた。IMF理事会がこのレビューを承認すれば、合計23億ユーロの資金調達が可能になる。このおよそ半分を予算に割り当てることが可能になるため、公的収入の圧力が今後いくらかやわらげられるだろう。次のIMFのレビュー及び引出しは2010年5-6月に予定されている。しかし、政府は少数民族の代表者や無所属派に頼る必要があるため、政治的な不確実性がリスクとして残る。



ロシア

暫定的なデータは2009年の実質GDPの縮小を7.9%とした。これは、第4四半期のGDPの縮小幅が前年同期比2-2.5%であることを示唆しており、第1から第3四半期にかけての9-11%の縮小と比べて顕著に改善されている。2009年の低迷振りは、ロシアの原油依存の高さによるものが大きかったが、輸出品のウラルブレンドは2008年の1バレル辺りUSD94ドルから同USD61ドルまで下がった。世界的な経済危機への初期段階での経済政策対応の弱さと構造的・制度的な弱さも影響した。2010年には2-3%の控えめな成長になるだろうが、弱い銀行セクターと原油価格の急変への脆弱性が下振れリスクとなるだろう。



コスタリカ

直近の世論調査は、今度の日曜日(2月7日)に行われる大統領選に先立ち、与党国民解放党候補者のラウラ・テンジャ氏が最有力となり、最も近いライバルの自由運動党のオットー・ゲバラ氏を楽に引き離し、市民行動党のオットン・ソリス氏とキリスト教社会連合党のルイス・フィッシュマン氏も大きく引き離れた。最低40%の得票も見えてくる中、初選で勝利する可能性もあるが、最近ゲバラ氏も支持を高めている模様である。もしテンジャ氏の勝利が実現すれば同国初めての女性大統領が誕生するが、現職のアリエス大統領の政権(社会民主的な傾向を持った概ね中道主義)と概ね政策の継続性は図られるだろう。立法府、および地方の選挙も同時期に実施される。



フィリピン

2009年第4四半期の実質GDPは前年同期比1.8%増加し(先行予測)、第3四半期の0.4%を上回った。この増加は公的支出の12.1%もの急増(第3四半期:8.1%)と個人消費の5%の増加(同3.2%)に支えられたものだった。投資は引き続き落ち込み(-1.6%)、輸出(-10%)、輸入(-2.5%)も同様の動きを見せた。2009暦年ではGDPは0.9%増加した(2008年には3.8%)。インフレ率は2009年末で4.4%まで上昇した。中央銀行は先週、主要政策金利一オーバーナイト借入金利を4%、同貸出金利を6%に据え置いたが、再割引率を50bps引上げて4%とした。今後数ヶ月の間に金融引き締めが行われることだろう。

ALSO IMPORTANT...



クウェート

暫定予算統計は3月末締めめの財政年度の初めの9ヶ月について、250億ドルの財政黒字を示している。収入は2009-10年度の想定されたものを(原油1バレル辺りUSD35ドルを想定していたものとはいえ、)60%上回っている。2010-11年の財政年度については、原油価格はUSD43ドル/バレルが採用されているため、赤字と予想されているものの今回も大幅な黒字となることだろう。国会は2010-14年度の計画期間に実施されるものとして合計USD1,040億ドルにも上るメガプロジェクトを承認したため、建設およびインフラ関連プロジェクト(鉄道、道路、港湾とその周辺施設)が改善ないしは開始されることになるだろう。周囲は問題を抱えているところもあるが、相対的に健全なビジネス環境が期待できるだろう。



ギニア

ジャン・マリイ・ドレ氏の下、民生政府が設立され、今年の終わりまでには選挙が実施されることが約束された。これは2008年の軍事クーデターおよび昨年9月の暴動、12月のカマラ大統領の襲撃といった事件からすれば事態は大きく反転したと言えよう。しかし、民主主義は未だに脆いものであり、軍は存在感を示し続けるだろう。予算の半分以上が海外援助によってまかなわれ、地域的な制裁の影響が見え始める中、政府の民生回帰は現実的な決断だったといえよう。ギニアは、世界二番目のボーキサイト(アルミの生産原材料)の生産国として、戦略的な重要性を持っている。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



パラグアイ

2009年に経済は3.8%縮小したが、この一部は旱魃の影響によるものである。というのも、大豆、穀物および肉類の生産を行っている農・酪農業がこの経済の主要な部分を担っている。不景気は、財政赤字と公的債務比率に圧力をかけたが、これらは当初は管理可能な水準であり、また、対外バランスも概ね許容範囲である。しかし、ガバナンスが弱いため、将来の政策実施にかかる不安は残る。また、コモディティー価格の見通しは依然として弱々しい。疲弊した制度枠組みとルゴ大統領の弱い立場は政治的な安定に対する不安も浮上させている(しかし、これによって急激な左翼化のリスクも抑えられていると言ってよいだろう。)



ジブチ

国内での、イッサ族とアフア族の間の衝突と近隣諸国の治安に関する対外的な懸念事項—当該国はソマリア、エリトリアとエチオピアと陸地の国境が接している—は、政治的な安定にとって高いリスクとなっている。経済はサービス業に依拠しており、外貨はトランシップ貿易による港湾収入(エチオピアの貿易の殆どはジブチの港から出荷される)と、当該国内の国際軍事基地(使用料)によって創出されている。カレンシーボード制を採用しており、通貨の交換リスクは抑えられている。平均実質GDP成長率は2008-09年においては6%程度であり、港湾への投資を反映したものとなった。この水準が2010-11年にわたっても続くことになるだろう。

IN BRIEF

リトアニア

第4四半期の実質GDPは前年同期比13%縮小し、2009暦年のGDPは15%縮小した。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.